

■ ===== ■

◆◆建設トップランナー倶楽部通信第1号◆◆

■ ===== ■

建設トップランナー倶楽部の皆様へ

本年もよろしくお願ひ申し上げます。
建設トップランナー倶楽部・幹事長の荒木正芳です。

建設トップランナーフォーラムは昨年12月末で役目を終え、
建設トップランナー倶楽部として再スタートを切りました。

建設トップランナー倶楽部は、建設トップランナーフォーラムの活動・理念を受け継ぎ、
緩やかな連携機能を維持しながら(1)メルマガなどで全国の情報を配信(2)全国フォーラム
に合わせた交流会の実施(3)ホームページによる情報提供—などに取り組み、地域建設業
の複業化活動を支援していく予定です。

さて、2009年を振り返りますと、地域建設業は政治に翻弄された1年でした。
昨年4月の15兆円に上る追加経済対策によって、長年続いた公共事業の減少基調に
ようやく歯止めが掛かった、と喜んだのもつかの間、9月の政権交代で補正予算の執行停
止や基金の返上、ダム見直しなどが起こりました。

建設トップランナーフォーラムでは昨年12月、前原誠司国土交通大臣と菅
直人副総理に直接お会いし、地域建設業の重要性を訴えるとともに、短期の雇用対策とし
て「平成検地」を政策提言しました。

しかし、昨年末に発表になった2010年政府予算案をみると、「コンクリートから人へ」
の理念の下、公共事業費が前年度より15%カットされ、土地改良事業も半減されるなど、
予想をはるかに上回る厳しい結果となりました。>

われわれが主張している「地域建設業の複業化」とは、建設会社が「本業」を捨てて、他
分野へ業種転換するのではなく、建設業を基盤に「農業」「環境」「介護」「観光」など
の新たなビジネスを複合的に組み合わせることで、生き残りを図ろうという考え方で
す。

人口が多く、市場の大きな大都市では、様々なビジネスが成立する可能性は高いと思いま
すが、市場が小さな地方では、1つの業態だけで経営を支える従来型の企業では費用対収

入が見合わず、年間を通して継続に仕事を確保するのは難しいのが実態です。

建設トップランナー倶楽部では本年度も、地域建設業の複業化や新技術・新製品の開発など「筋の良い取り組み」を情報発信しながら、心熱き建設経営者とともに最大の難局を乗り越えていければと存じます。

なお、当倶楽部では、われわれの活動に賛同してくれる行政機関や民間団体とジョイント企画を実施することを考えております。気軽にご相談をいただければと存じます。

最後に事務局より、最近の話題として二つご紹介します。

★CS朝日ニュースター 2010年新春特番「地域建設業を元気に」
が、1月3日と1月11日（再放送）に放送されました。

提供 東北建設業青年会

スタジオの出演

キャスター 伊藤 聡子

東北建設業青年会会長 富田名重

東北建設業青年会副会長・顧問 大沼武彦

慶応義塾大学教授 米田雅子

災害時に活躍する地域建設業への取材、全国建設青年会議や建設トップランナーフォーラムの様子などが紹介されました。

★1月6日付、朝日新聞（朝刊）「2010成長はどこに」に、当倶楽部の代表幹事、米田雅子慶応義塾大学工学部教授のインタビュー記事が掲載されました。

<http://www.kentop.org/trk/shinbun/100106asahi.pdf>